２０１９年４月１１日（木）　静岡新聞　　経済９面

産業用無人ヘリ 災害現場で活躍

ヤマハ発開発者、文科大臣表彰

ヤマハ発動機は10日までに、同社の産業用無人ヘリコプターの制御装置開発者らが、２０１９年度の科学技術分野（開発部門）の文部科学大臣表彰を受けたと発表した。農薬散布や火山観測など、農業や災害現場の作業効率化、調査研究などに貢献した点が評価された。

生活発展に寄与する画期的な研究開発、発明などに贈られる。中村克同社ロボティクス事業部ＵＭＳ統括部長、佐藤彰静岡理工科大教授ら４人が共同で受賞した。

同社の無人ヘリは１９８７年に実用化された。安定飛行につながる姿勢制御と速度制御装置の開発で、初心者でも容易な操縦性と農薬散布作業の省力化を実現。国内では現在２７００機以上が稼働している。稲作の全作付面積における散布割合は４割を超え、普及拡大が進む。長距離を自動航行するシステムも開発し、近年では口永良部島、西之島などの火山観測にも出動している。

中村克部長は「今後も当社の無人機技術の開発を強化し、さまざまな社会課題解決に貢献していきたい」としている。

姿勢制御・速度制御システムを搭載したヤマハ発動機の産業用無人ヘリ

静岡新聞社編集局調査部許諾済み